

福島県大学生の力を活用した地域活性化事業 2013

『西会津町・新郷富士地区地域活性化事業報告』

宮城教育大学 小金澤研究室 仙台いぐね研究会



平成 24 年度 富士地区初調査(7月14日～15日)

宮城教育大学社会化教育専攻の大学院生と東北大学の院生、東北学院大学の大学生と共に調査に入った。まずは、富士地区ならびに新郷地区全体の地域の魅力や地域資源を紹介して頂いた。歴史専攻の大学院生や、自然地理を専門とする大学院生の学術的な地域資源の再評価がなされた。また、西会津の基幹産業である農業が地区でどのように営まれているのかを、各集落の区長さんにヒアリングさせて頂いた。結果については、調査報告書に記載している。



平成 24 年度 富士地区調査結果中間報告会(11月23日～24日)

7月のヒアリング調査の分析結果を地域の皆様に報告させて頂いた。特に農業を集落を越えて協力し、組織的に営まれていることが分かった。ただ、高齢化は進行している為、具体的な対策を議論した。



冬の西会津調査 (2月10日～11日)

2月10日の西会津町の雪まつりへの参加し、また東京都横浜からグリーンツーリズム事業で訪問している団体をもてなす新郷地区の自然塾の様子を見学させて頂いた。雪の中の祭の神の雰囲気は、とても幻想的で魅力ある取り組みだと実感した。

『西会津町・新郷富士地区地域調査報告書』

1-1：集落实態調査結果

地名	人口	戸数	高齢化率	集落内農業従事者	集落の特徴
小清水集落	29人	16戸	34%	6人	標高 340m 集落の中心で清水が湧く
漆窪集落	8人	4戸	37%	2人	標高 273m 富士山(508m)の麓に位置する
泥浮集落	6人	3戸	50%	2人	標高 350m 隣の漆窪集落を富士山を介し隣り合う

1-2：集落農業調査報告

7月15日に各集落の区長の方々に、以下の項目についてヒアリング調査を実施し11月に分析結果を中間発表として小清水集落の集会議場で報告を行った。

＜小清水集落＞

農家 No.	所有面積	経営耕地	うち水田	うち畑	耕放棄	保全	作付	貸面積	貸先	借有無	委託有無	委託先	機械所有				林地面積
													トラ	田植	コン	乾燥	
1	424	389	355	5(ニラ)		15	ソバ	20	橋谷				2	2	1	1	800
6	122	72	72		50								2	1	1	1	400
4	96	68	68		3	25							1	1	1	1	353
5	57	47	37	10(ニラ)		10							1	1	1	1	300
2	52	44	2.5	1.5	3	5				有40	有	高目19	1	1	0(委)	1	430
3	14.8	10	7	3	3	1.8							1	1	1	1	100
8	33	3				10		20	小清水1		有	小清水1	1	1	1	1	5
9	53	2		2		51	ソバ(37)						1	0	0	0	250
10	130	2		2	40	18		70	小清水1		有	小清水1	1	0	0	0	680
7	32	0						32	小清水1高目?		有		0	0	0	0	130
11	110	0	0	40	40			70	小清水30高目40			小清水1高目19	0	0	0	0	280
12	0	0	0	0	0	0							0	0	0	0	0
13	150	0			50			100	小清水		有	小清水1	0	0	0	0	500
14	42	0	0	10	10			32	小清水高目		有	小清水2高目1	0	0	0	0	0
15	85	0			20	15	ソバ	50	高目		有	高目1	0	0	0	0	400
16	60	0	0	0	5	20	ソバ	35	高目		有	高目1	0	0	0	0	300

●調査結果 1

水田の貸借を、中山間地直接支払制度を活用し積極的に富士地区集落間を越えて行っている。集約し耕作放棄田の抑制に努めているが、中心となっているリーダー的耕作者は限定化され高齢化も進んでいる。早期に後継者育成を進めなければ、富士地区全体の集落協定が崩れ耕作放棄が一気に進行する懸念がある。

＜漆窪集落分析結果＞

農家 No.	所有面積	経営耕地	うち水田	うち畑	耕放棄	保全	作付	貸面積	貸先	借有無	委託有無	委託先	機械所有				林地面積
													トラ	田植	コン	乾燥	
2	130	110	100	10(ソバ)	0	20				有(40)			1	1	1	1	1000
1	120	70	60		0	50						乾燥	1	1	1	0	1000
4	2	2	0	2	0	0							0	0	0	0	0
3	40	0			0	0		40	泥2				0	0	0	0	1000

＜泥浮集落分析結果＞

農家 No.	所有面積	経営耕地	うち水田	うち畑	耕放棄	保全	作付	貸面積	貸先	借有無	委託有無	委託先	機械所有				林地面積
													トラ	田植	コン	乾燥	
1	285	285	200	85(ソバ80)	0	0							1	0	1	1	600
2	215	205	100	05(ソバ100)	0	0		10	漆窪1			田植え	1	0	1	1	700
3	75	70	30	40	0	0		5	高目19								300

●調査結果 2

富士地区全体的に山間部であることから個人で保有している林地面積が大きいことが分かった。それに対して、普段から植林してきた杉等の間伐や枝打ちの実施、個人所有地の境界を把握していないことが判明した。林地の保管理は、耕作地以上に個人の労働力負担が大きく、また国土保全の観点から考察すると山間部の維持管理は下流地域への影響も大きい。今後は林地面積の把握・維持管理方法の検討が必要である。

1-2：集落農業調査報告

親戚ネットワークの状況報告

●調査結果を踏まえて

調査結果を踏まえて考察できたことは2点。第1に富士地区において農地・林地の維持管理には、今後労働力の補填が高齢化の進行と共に必要になるのは明らかである。第2に、地域外出者の親戚ネットワークを整理すると富士地区の在住者の約2倍の75人がいることが判明した。

	町内居住者			県内居住者			県外居住者		
	小清水	漆窪	泥浮	小清水	漆窪	泥浮	小清水	漆窪	泥浮
週1回	2	1	0	2	2	4	0	0	0
月1回	0	0	0	5	3	4	0	0	0
年1回	1	0	0	7	2	6	11	13	13
帰省なし	0	0	0	0	1	0	2	0	2

1-3：新郷地区(富士地区を含む)

新郷地区には、“寺前自然塾”という組織が存在している。富士地区を含めた数集落の協力者から組織され、地区の祭事を執り行ったり地域活性化の催しの企画・運営を行っている。高齢化と過疎化が進む中で、地区全体で取り組むことを行える力が新郷地区にあることが分かった。地域の男性陣と女性陣の役割分担がしっかりなされており、イベントを行う際の機動力が素晴らしい。私たちいぐね研究会も、100人の子供を対象としたイベントを年間数回に渡って開催するが自然塾の円滑な運営はとても勉強になった。

2-1：集落の活性化策

●地域資源の発掘と再評価

7月・9月・11月の調査では継続して富士地区、範囲を大きくして新郷地区の地域資源を発掘する活動をした。その結果、豊かな自然から育まれる地域資源(清水・阿賀川の雄大な流れ・富士山からの飯豊連峰に向けての眺望)や地域に昔から伝わる歴史文化資源(歴史遺跡・文化風習・祭事)が数多くあった。



●地域の魅力の情報発信ツールの作成

これらをお宝マップに整理し掲載することで、富士地区ならびに新郷地区を訪れる機会を創出する情報発信を担うであろう。また調査で判明したのは、親戚ネットワークが広範に広がり特に都市部への流出が激しいことが分かった。マップも、都市部の交流人口を獲得する、都市部の親戚様に発信する様式と町内仕様に分けることも検討している。これは、在住地域の際によって西会津の魅力の認識にも異なりがあると考えたからだ。



●親戚ネットワーク内の孫世代への富士地区環境学習プログラムの作成と実施

調査結果から、都市部に在住する孫世代は親が集落出身者であると年1~2回盆・正月のみ帰省していることが多い。次世代の集落の労働力補填が必要であることから、集落の風習や生業に関心を持たせ興味を引き出す学習プログラムの作成が交流人口を増やす上で有効であると考えている。



学部生報告書

今年度初めて西会津を初めて訪れた学部3年生に、西会津町富士地区の地域活性化事業について考察してもらった。学部生の視点から見た印象や地域の魅力について報告している。

また、私たち宮城教育大学小金澤研究室は、夏と秋に「いぐねの学校」という環境学習プログラムを小学生対象に10年以上継続して開催してきた。この取り組みを、西会津の富士地区で行うと想定した時にどのような内容で企画するかも考えた。今後の地域活性化の1つ、都市と農村を繋ぐ交流人口を増やすために子供向けのプログラムの参考できたらと考え報告した。

1：鈴木勇斗(学部3年生)

・新郷地区を初めて訪れての印象

最初に受けた印象はとにかく「自然が多い！」につきました。普段たくさんの住宅や店が並んでいるところで生活する私たちにとって、これほど自然が豊かな地域は新鮮でした。訪れた当初はこの地域の人と交流できるか不安でしたが、集会所での交流会では初対面であるにも関わらずとても親切にいただき、たくさんのお話を聞くことが出来て非常にうれしかったです。またその話の中で、どの方もこの新郷と言う地域に愛着をもっており、自分たちがこの地域を盛り上げようという気合がこちらにも伝わってきました。

・新郷地区を大学生の目から見ての魅力

新郷の魅力は多くの自然と、自然の恵みを活かした食材だと思います。私は今回、富士山の登山とそば会に参加しましたが、どちらもこの地域の人が自信を持ってオススメしてくれたものでした。やはりその地域が誇りに思っているものこそ地域の資源であり、私のような他地域から来た人も魅力として感じられました。

・新郷地区の活性化方法

新郷地区には様々な魅力ある食材があるので、そば会だけでなく西会津名物の味噌ラーメンや馬刺し、この地区の郷土料理などを盛り込んだ西会津全体の「食の文化祭」のようなイベントを行うのが良いと思います。またこの地区の皆さんが誇りに思っている「会津富士」を活かすために、頂上の景観をよくするための工夫や登山ルートの整備などを行って、気軽に登れる富士山ということをアピールし観光客を呼び込むのも有効だと思います。



富士山から飯豊山の景色。せっかくいい景色なのに木が邪魔で見えないところが有るのが残念！



西会津の味噌ラーメン。味が良いので、そばと合わせてもっとアピールして欲しい！

・冬の(2月)西会津を訪れての感想・印象



とにかく雪がすごく、11月に訪れた場所と同じとは思えない変化だった。一応雪がすごいというのを事前に聞いていたものの、こんな大量の雪の中で人が生活しているというだけでもすごいと思った。またこんな雪のつもる中、雪祭りや自然塾での活動を元気に行っている西会津の皆さんを見て改めてこの西会津の地域の人達のすごさに気づくことができた。

・新郷地区自然塾のグリーンツーリズムを見ての感想

地域の人の皆さんがこの西会津という地域の良さを分かってもらうために様々な準備を行っていたことがとても印象的であった。地元食材を使った料理に横浜から来ていた人はとても喜んでおり、自慢のそばに関しても非常に好印象だった。ただせっかくこんなに豪華な料理なの、料理の紹介や活動の説明が少なく、料理を用意してくれたお母さん方の活動の様子があまり伝わってなかった気がした。なので今後はそばを作っている様子の写真や使用した食材をパネルなどで説明し、西会津ならではの料理が味わえるということによりアピールするのが良いのではないだろうか。

・自然塾でいぐねの四季の学校をする場合の企画

企画名：「富士山登山ツアー」 ・企画時期：夏 ・企画内容（企画の目的、活かす地域資源）

富士山と名のつく山の中で二番目に高い西会津の富士山という地域資源を活かして富士山の登山ツアーを行う。この企画の目的はあまりメジャーではないこの西会津の富士山の良さ、また西会津には多くの森林がありその資源を活かした産業が今も行われていることを知ってもらうことを目的としている。登山の途中にガイドの方に西会津の林業やそれに使われている木の種類の解説をしてもらいな

がら頂上を目指す。頂上に着いたところでお昼ご飯にし、できればそのお昼ご飯にはいぐね米を使ったおにぎりに西会津の漬物を使用し、私たちいぐねの学校の活動や地元の食材にも目を向けさせたい。



富士山での下山の様子。なかなか急な坂だった。



西会津冬の様子。仙台では見られないような雪の量である。

2：小宅彩乃(学部3年生)

・新郷地区を初めて訪れての印象

新郷地区に初めて行ったとき、正直、こんなに高所の地域に人が住んでいるのかと思ってしまいました。とにかく自然が多く、普段の生活ではあまり見られないような風景が続いていました。初めて出会う地元の方々との交流はとても緊張していました。しかし、皆さんとても明るく元気な方々であるため、楽しく過ごすことが出来ました。その夜は、地元の方のお家に泊めていただきました。初めて見る物が数多くあり、とてもおもしろかったです。次の日には、富士登山。のはずが、男性陣のみで私は参加出来ませんでした。自然たっぷりの山道を登り、きれいな景色を見ることが、普段の生活では体験できないようなことだったので、次回は是非登りたいです。



2日目に行われたそば会では、西会津の郷土料理がたくさん振る舞われました。白いそばは初めてで、とてもおいしかったです。菜の花の油で揚げた天ぷらは、サクサクしていて、今まで食べたことの無いとてもおいしい物でした。



・新郷地区を大学生の目から見ての魅力

私が新郷地区で魅力を感じたのはたくさんの自然、おいしい料理、元気な地元の方々。このほかにもたくさんあると思いますが、富士山に登りたい、またおいしい料理が食べたい、また新郷地区の方々とお話したい、そう感じさせるところです。

ただし残念だなと思ったのは、そば会でそばを打っているところが見られなかったことです。2月に訪れたときも、その様子は見られなくて少し残念に思いました。スペースなどの問題もありますが、出来ればうっている様子が見られたら、もっと印象に残るのではないかと思います。また、出てくる料理のお品書きのような物を入り口にでも飾ってあれば、いいのかなと思います。もっと料理に意識が向くし、最初に入ってくる方々は楽しみに感じるはずです。

2) 2月西会津調査

2回目の冬の西会津。雪の多さには、再び驚かされました。雪祭りへの参加はとても楽しく、いい思い出となりました。雪のつもり方は仙台とは比べものにならないくらいで、訪れた日も雪が降り続けていました。歩道の脇に寄せられた雪は身長と同じくらいの高さで、ここに住んでいる方々は本当にすごいなと感じました。



また、グリーンツーリズムでは他地域から来た方々に西会津の魅力を伝えようと様々な企画を立てている様子が伝わりました。酒蔵を訪れるということになったときに、参加されている方々が大喜びしていたところが、とても印象的でした。そば会でも、地元の方々が一生懸命作られた料理を、横浜の方々はとても喜んで食べていました。他地域の方々との交流はとても刺激的で、本当に素敵な会だなと思います。ただやはり、料理の説明だったりを少しでも紹介するようなことをした方が、より印象に残るし、料理を作ってくれたか方々の様子も伝わるのではないかなと思います。

2 : 梶間志帆(学部3年生)

・新郷地区を初めて訪れての印象

2012年11月23～25日の3日間と2013年2月10～11日の2日間、福島県西会津町を訪れて活動を行った。この2回の訪問で非常に印象深かったのが、秋と冬では町内の様子が一変してしまうほど大量の雪が積もることである。私は雪がほとんど降らない地方の出身であり、これほど大量の雪を目にする機会は今までになかった。

た。雪に馴染みのない者から見れば大量の雪は大いに珍しく貴重なものであるため、雪を活用した遊びの場を設けることは子ども連れの家族が西会津を訪れる目的にしやすいのではないかと考えた。また子ども時代に何度も遊びに来た場所であれば、大人になってから今度は自分の子どもを連れて遊びに来るといことが考えられる。



沢山の雪の中で遊ぶ子供たちの様子

・新郷地区を大学生の目から見ての魅力

そういった意味で雪国祭りに沖縄県の子どもたちを招いたのは非常に意義のあるものだったのではないかと考える。沖縄県の子どもたちの間で冬は雪のある西会津に遊びに行くというイメージが固まれば定期的な交流が生まれる。子どもたちは雪上運動会にとっても楽しそうに参加しており、地元ではできない体験ができて大はしゃぎだった。何でも遊びの材料にしてしまえる子どもたちのために雪を活用した遊び場所のセッティングは非常に魅力的に感じた。

また雪まつり後の夕食会では地域の方々とグリーンツーリズムの方々との交流ができた。地元の食材にこだわった品目の数々は非常に魅力的だと思った。特に珍しいと思ったのが饅頭の天ぷらと干し柿の天ぷらである。どちらも食べるまでは味の想像がつきにくく恐る恐る口にしてみたが、本来よりも甘みが増しさらに衣の食感も楽しめる非常に優れたものであった。私が感じたのは西会津にはこのような郷土料理があるということがあまり知られていないのではないかとことである。他地域の人々は名称は知っているものの、どう



はじめて食べた饅頭の天ぷらはとてもおいしかったです！！

いう味がするのか、どのように調理しているのかといったことに関しては知らないのではないかと思います。実際グリーンツーリズムの方々も料理が出てきたときそれがなんなのか分からなかったらしく、地域の人に聞きながら食べていた。こういった特色ある地元の料理は大きなアピールポイントになると思うので積極的に発信していくべきだと思った。その料理が地元ではどのように食されているか、どのように調理されるのか、地元の食材がどのように活用されるのかといったことを交えながら他地域に発信していくことで興味をもってもらえるのではないかと考えた。

11月の調査の際には織物に使うヨシの採取をした。形がススキに似ており、区別するのに始めは苦労した。ヨシは特別なところに行かなくても民家の裏庭などに群生しており、大量に採取することができた。これの葉を取り厚皮を剥き短く切るとタペストリーや小さな簾が作れるため、地元



の材料を使った商品ができるのではないかと思います。

西会津で取ったヨシを使って環境教育のブースを作りました。子供たちがとても喜んでくれました

た。このヨシを活用して、仙台の中心部で年に1回開催される“環境フォーラム”という催しで、自然の恵みを使って楽しく遊ぶブースを作った。小さな子供が、麻の縄とヨシを交差させながら一生懸命タペストリーを完成させようと取り組んだ。このように、生活の周りにおいて当然の物が、仙台の中心部では手に入らず珍しい体験として子供たちに人気があるのだ。西会津の自然自体が宝であると実感した。

この日の夜には新郷地区のお宅に宿泊させていただき、心づくしのもてなしを受けた。ここでも地元の食材をふんだんに使った料理の数々に舌鼓を打ち、西会津の名産品である芋焼酎、そば焼酎、濁酒を楽しんだ。西会津に行って毎回思うことがとにかく食べ物と飲み物がおいしいということである。食材が新鮮取れたてで良質だということもあると思うが、その他にも山の中で料理を食べるという環境的なものと、大人数で食卓を囲むということがあるのかもしれないと思った。私が宿泊させていただいた A さんの家



A さんのお宅で民泊をさせて頂いてとても楽しい夜でした。

は 10 人以上で一緒に食事することができる大きな居間と寝室があり、大人数で交流することを想定した造りになっ

ていた。A さんは滞在中ずっと「自分の家に帰ってきたと思って過ごして欲しい」と言ってとても親しげにもてなしてくださった。ここに私たちが一般的にイメージする家庭との違いがあると考えられる。私たちの世代は核家族の生活が当たり前になっており、多忙のため家族が家族のことを思いやることができない生活になってしまいがちである。昔のような大人数でともに生活を送る大家族の形態を知らないのである。そのため家族との繋がりが希薄になっていると言われがちであるが、A さんのお宅には温かい雰囲気が溢れていた。家族がお互いに助け合って生活を営んでいくという現代



では失われつつある姿がここには残っていた。それは家族内だけではなく地域内の交流の中にも見られ、西会津町の人々は他地域の人々に比べ結びつく力が強いと感じた。だからこそ私たちは西会津の地域の人々と交流すると温かい気持ちになれてまたここに来たいと思うのではないかと考えた。地域の人口が少ないからこそ生み出される特性だと思うので、これからもずっと大事にしてほしいと強く思う。